

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 44

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名	読書促進事業					
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	図書業務係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	
		氏名	高橋健仁	氏名	櫻井輝久	
事業の概要	多様な学習目的と複雑かつ高度化する生涯学習ニーズ及び利用者の利便性の向上に対応するため、図書館図書の整備を行う。				全体計画 / 期間限定複数年度 (平成 20 年度 ~ 24 年度)	
					事業費	千円
					国・道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	20,250 千円
					事業費計	20,250 千円
実施方法	直営	民間委託	その他 ( )			
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	A	
事業の位置付け	政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～			
	基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進			
	単 位 施 策	4	図書サービスの充実			
	事務事業の種類		自治事務	法定受託事務		
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	2,650 千円	3,650 千円	4,148 千円	5,000 千円	5,150 千円
	合 計	2,650 千円	3,650 千円	4,148 千円	5,000 千円	5,150 千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	貸出冊数は堅調であるものの、施設環境等の要因とも合わせ、来館者の固定化が見られる。	購入冊数3,416冊、町民一人当たり年間貸出冊数10冊			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	多種多様化する町民ニーズに対応した読書活動や図書館環境の向上を図る。	指標(指標計算式/解説)	図書購入冊数	目標年度	22年度
				目標値	3,416 冊
				実績値	3,285 冊
				達成度	96.2 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果=目的	読書活動や図書館環境の向上を図ることにより、町民にとって魅力的な図書館を創出するとともに、町民の学びを支援する。		一人当たり貸出冊数	目標年度	22年度
				目標値	10 冊
				実績値	7.1 冊
				達成度	71.2 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
図書購入冊数	3,285冊 (前年度比 812冊増)				
年間貸出冊数	・年間貸出冊数 34,343冊(前年度比 4,169冊増) ・一人当り年間貸出冊数 7.1冊(前年度比 1.0冊増)				
ブックスタート	子育て支援の一環として、6・7ヵ月健康相談時に読み聞かせを行い、絵本(2冊)を贈呈した。				

### 3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	蔵書の充実と魅力的な図書館づくりの基本であり、町民の生涯学習に対応するために必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要 / 概ね必要 / 課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	蔵書の充実と専門職員のレファレンスの充実等により、町民の要望に対応できるようになり、年々貸出冊数も大幅に増加していることから、有効な事業である。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	
有効 / 概ね有効 / 課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	再販法により図書購入自体のコスト削減は困難であるが、貸出冊数が大幅に増加しており、町民利用の面からコストに見合った効果が得られている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民の多様なニーズに対応し蔵書の充実を図っているため、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

### 4 総合評価【A～D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町民の読書活動や図書館環境の向上を図るため、計画どおりの事業を達成した。		

<b>今後の展開方向</b> (Action)	↓ ↓ ↓		
	<b>継続 / 現状維持</b> 50,000冊の蔵書を計画的に進めるため、本事業の継続が必要である。		
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更      終了      休止      廃止			

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 45

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		図書館システム更新事業				
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	図書業務係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査
	氏名	高橋健仁		氏名	櫻井輝久	
事業の概要	保守期間を経過した旧システムを更新し、故障等による利用者サービスの低下を解消するとともに、新たなサービスの充実を図る。				全体計画 / 単年度のみ (平成 22 年度 ~ 24 年度) 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 3,210 千円 事業費計 3,210 千円	
実施方法	直営	民間委託		その他 ( )		
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	3	のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~			
	基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進			
	単 位 施 策	5	施設・備品の有効活用			
	事務事業の種類	自治事務		法定受託事務		
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	千円	千円	2,759 千円	147 千円	105 千円
	合 計	千円	千円	2,759 千円	147 千円	105 千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	システムの故障等により、利用者サービスに支障を来たす状況となっている。	図書館システム更新			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	システムの更新により、サービス低下を解消するとともに、蔵書検索の拡充など、新たなサービスの充実を図る。	図書館システム更新	目標値及び実績値		
			目標年度	平成 22 年度	
			目標値	1 式	
			実績値	1 式	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	町民の利便性が向上するとともに、システムによる効果的な蔵書管理等を図る。	図書館システム更新	達成度	100.0 %	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
図書館システム更新	旧システムからのソフトの入れ替えの他、ハードウェア一式の交換を行った。				

### 3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

<b>必要</b>	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	公共図書館としてサービスを提供するにあたり、図書館システムは重要であり、当該事業を実施しなかった場合、利用者に対して多大な影響を与えるため、必要な事業である。
必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

<b>有効</b>	設定した目標値の達成状況	システムの更新により、蔵書検索の拡充など、利用者の利便性が向上したとともに、システムによる効果的な蔵書管理が図られた。
有効 / 概ね有効 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

<b>効率的</b>	判断の理由	競合各社との比較によりコストパフォーマンスに優れたシステムであり、旧システムより充実した蔵書検索等を行うことができるものであることから、業務の円滑化・効率化が図られた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
<input type="checkbox"/> 人員削減		
<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他		
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり		

(4)事務事業の公平性

<b>公平</b>	判断の理由	公共サービスを担う図書館のシステム更新であり、対象は全町民となるため、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
<input type="checkbox"/> 受益者負担がない		
<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他		
公平 / 概ね公平 / 公平でない		

### 4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>A</b>		
システムの更新による利用者の利便性向上を図るため、計画どおりの事業を達成した。		

<b>今後の展開方向</b> (Action)	↓	↓	↓
	<b>終了</b>		
次年度以降は、保守料のみであることから、経常対応とする。			
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更      終了      休止      廃止			

### 5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 23 年度 事務事業事後評価調書 (平成 22 年度事業)

整理番号 11 - 46

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		図書館備品整備事業					
評価者	担当課名	教育振興課		担当係名	図書業務係		
	管理職	職名	課長	作成者	職名	主査	
	氏名	高橋健仁		氏名	櫻井輝久		
事業の概要		書架の不足による蔵書管理上の問題を解消するため、新規に書架の設置を行い、施設の充実を図る。			全体計画 / 単年度のみ (平成 22 年度 ~ 年度)		
					事業費	千円	
					国・道支出金	千円	
					地方債	千円	
					その他	千円	
					一般財源	千円	
					事業費計	千円	
実施方法		直営	民間委託	その他 ( )			
第 5 期 総合計画 (前期)		掲載事業	非掲載事業	優先度	B		
事業の位置付け		政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～				
		基本施策	13 生涯学習・生涯スポーツの推進				
		単位施策	4 図書サービスの充実				
		事務事業の種類	自治事務	法定受託事務			
		その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	1,819 千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	千円	千円	1 千円	千円	千円	
	合計	千円	千円	1,820 千円	千円	千円	

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	書架の不足により配架に支障を来し、利用者の利便性が低下している。	書架購入			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	書架を新たに設置し、配架スペース不足の解消を図る。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
		書架購入台数	目標年度	平成22年度	
			目標値	6 台	
			実績値	6 台	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果=目的	余裕を持った図書の配架により、利用者の利便性向上を図るとともに、効果的な蔵書管理を図る。		達成度	100.0 %	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
<b>内 容(どのような手段で何を行ったか)</b>					
書架の設置	新しく書架6台を購入するとともに、入れ替えた書架を閉架書庫用に利用した。				

### 3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	利用者の利便性向上を図るためには、蔵書に見合う新たな書架を設置し、適切かつ余裕を持った図書の配架環境が必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	適切かつ余裕を持った図書の配架により、利用者の利便性が向上したとともに、効果的な蔵書管理が図られた。
	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	利用者や設置場所を考慮した書架の選定を行ったことから、利便性向上とともに、配架等に係るコストの削減が図られた。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	書架の設置により、対象となる町民全体の利便性が向上したことから、公平性は保たれている。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

### 4 総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
利用者の利便性の向上と効果的な蔵書管理のため、計画どおりの事業を達成した。		

<b>今後の展開方向</b> (Action)	↓	↓	↓
	<b>終了</b> 事業の目的が達成されたため終了。		
*展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更      終了      休止      廃止			

### 5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--